

東日本ユニオンにいがた

http://www.geocities.jp/higashinihonunion_niigata/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2017年4月10日発行

第23号 (通巻第55号)

発行者: 岡村広志 編集者: 教育・広報部

駅業務委託拡大の課題を議論

中身 駅業務委託のさらなる推進に対する申し入れ団体交渉終了

新潟地本は3月14日、申8号・駅業務委託のさらなる推進に対する申し入れの団体交渉を行いました。
加茂・亀田駅の業務委託化の提案を受け、整備すべき課題の克服と、お客さま・地域社会から信頼される鉄道の実現をめざし交渉に臨みました。

地本交渉団は、今回の施いとしました。
策において加茂駅・亀田駅を業務委託化する理由を問いました。
支社側は、エルダー社員

の雇用の場の確保と効率の業務運営体制構築の観点から計画的に駅業務委託化を行ってきたとして、今回は加茂と亀田を選

択しました。
地本交渉団が、乗降人員や収入が比較的多い駅を

常時早期復旧のために、管理駅の業務担当を増員するように求めると支社側は、ポイント不転対応については、業務委託駅においても対応できるよう検討していくことで考えていると回答しました。

その上で、現状では府屋、津川、出雲崎の3駅が対応可能であり、試行として水原、あつみ、柿崎、分水、燕を対象に机上教育を行ったが少雪で実地教育が行えていないことを明らかにしました。

交渉団は、ポイント不転換だけではなく復旧に相

当な時間がかかっている現実から、施策を打ったがゆえに業務社員に負担が行かないように業務社員を増員するか、委託駅の再考が必要ではないかと主張しました。

しかし支社側は異常時のための要員配置は考えていないとの回答を述べるとどまりました。



サービスや地域とのつながりは?

駅社員が一人または無

人の際の異常時やトラブル対応に対する考え方を明らかにするよう求める

と支社側は、基本的に業務委託駅社員が対応することとなるが、状況により管理駅で対応する場合もあると回答しました。

また、車イス対応は駅の構造上対応可能な駅の営業時間内であれば対応できるが、それ以外の場合は対応可能か判断する必要がありとしました。

新潟支部 第3回定期支部委員会開催!

一人ひとりの歴史と決断、たたかいや運動を振り返り 新たなスタートラインに立ちよう!



新潟支部は3月25日、新潟支社大会議室で第3回定期支部委員会を開催しました。約100名が参加しこの間の成果と課題を確認し、今後の方針を決定しました。

星山執行委員長はあいさつで春闘、職場諸問題、エルダー社員制度について触れ、「今春闘は職制による格差を反映させたものでなく一律の回答。しかし要求との乖離は大きく誰もが納得できていない」「上越線での1725Mの事象は社員・お客さまの命が脅かされるものだったと我々労働者側が感覚できていたのだろうか? 共に

めろし、必要があれば新たに開始する場合はあるとの考えを示しました。

◆ ◆ ◆
業務委託駅におけるサービスの向上のため営業時間の拡大を行うよう求め

ました。
交渉団は、ワンマン列車が多い中で運転士の労力増大とサービス低下という改善すべき実態について訴えました。

支社側は、お客さまのご利用実態等に合わせた設定しているとする一方で、営業時間は縮小の方向であるとの考えを明らかにしました。

これまで行ってきた地元地域との連携は今後の

ように行っていくのか明らかにするよう求めると支社側は、燕三条又は新潟が対応するとして、また、亀田は出張販売をやり、加茂は1校やめて2校に

対して行うとしました。

また全体的にやめられるところはやめる方向だと明らかにする一方で、業務委託とは関係ないと

の考えを示しました。

横浜・長野地方本部で
平成採用・新入社員の仲間が相次ぎ加入!

歓迎!

3月31日付 横浜地方本部
4月1日付 横浜地方本部
4月3日付 長野地方本部

新たな仲間とともに
がんばろう!!

